

証券コード：4569

健康はキョーリンの願いです。

第61期 株主通信 | 2018年4月1日～2019年3月31日

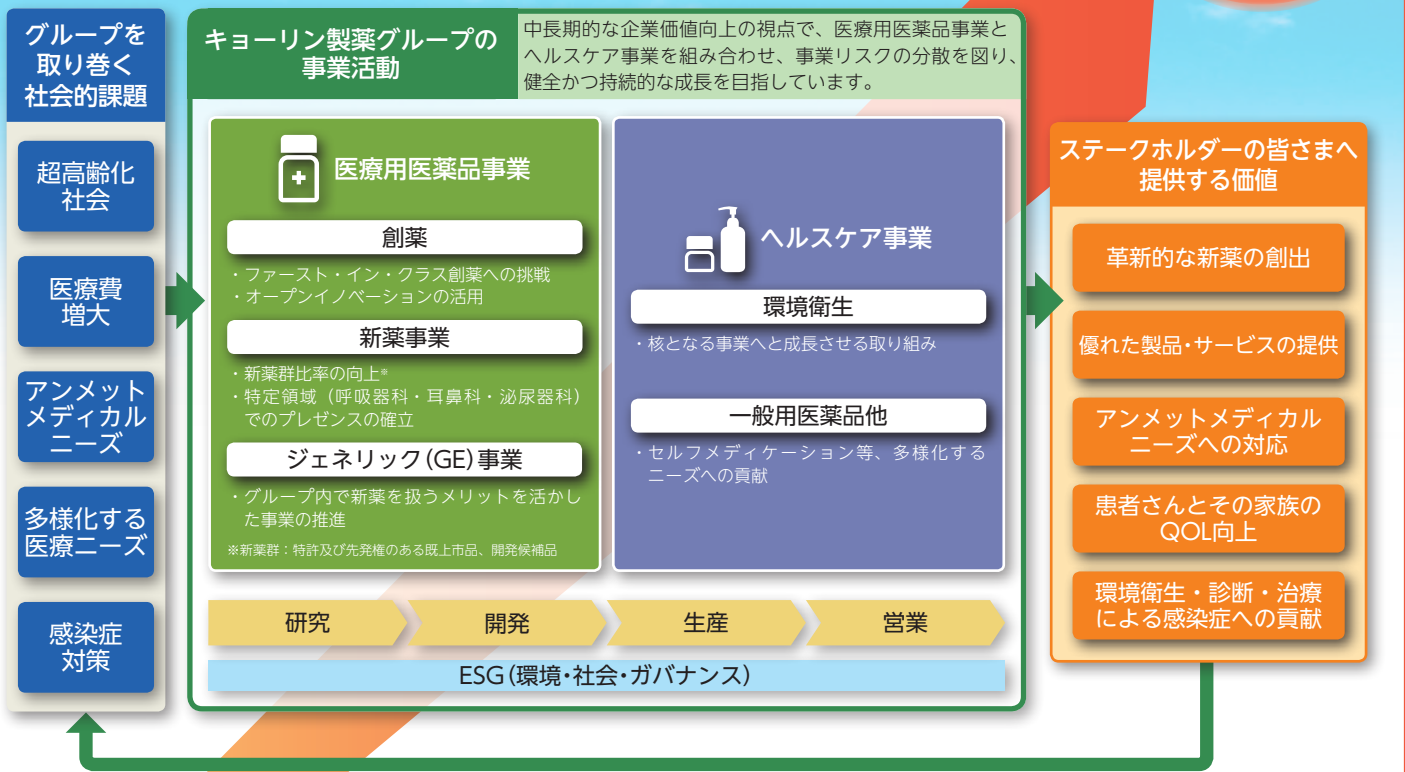
Kyorin 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

キョーリン製薬グループが目指す企業像と価値創造プロセス

キョーリン製薬グループは、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命であり、自分たちの価値創造の源泉であると考えています。私たちは医療用医薬品事業を中核とし持続的な成長を目指しています。一方で、多様な健康ニーズへの対応、医療用医薬品事業の成長補完の観点からヘルスケア事業を複合的に組み合わせた事業展開をしています。ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点も合わせ、社会的課題への対応を行いながら、企業価値の向上に取り組んでいます。



当社グループでは、中核子会社である杏林製薬（株）の創業100周年に当たる2023年を見据えた長期ビジョン「HOPE100」を2010年に策定しました。最終年度までの期間を3つのステージ（ステージ1：2010～2015年度、ステージ2：2016～2019年度、ステージ3：2020～2023年度）に分け、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」を現在推進しています。

私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、 長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。
当社グループの2018年4月1日から2019年3月31日までの第61期の事業の概況をご報告申し上げます。



当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を買き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の具現に向け、グループの中核子会社である杏林製薬(株)の創業100周年(2023年)を見据えた長期ビジョン「HOPE100」を策定し、中長期的な視点で企業価値向上に努めております。



代表取締役会長 穂川 稔



代表取締役社長 荻原 豊

医療用医薬品業界では、社会保障費の財源確保を背景とした医療費の効率化や薬剤費抑制策の推進等、これまでに経験したことのない大きな変化が想定以上の速さで進んでいます。このような環境の中で、持続的な成長を実現していくには、外部環境の変化を先取りし、より早く適切に対応することが必要です。更に新しい成長シナリオを描き、自主的・自律的に行動することも重要と考えます。

当社グループは、現在、「HOPE100-ステージ2-(2016年度~2019年度)」を策定し、さらなる持続成長と中長期的な価値の創出に努めています。ステージ2におけるステートメントを「長期ビジョン実現に向けて、変革(変化と革新)を行い、持続成長を図る」とし、その目標達成に向けて、2018年度は全社員の力を結集し、スピーディーな変革を実行するとともに、成長基盤の強化と収益力の向上に最大限注力いたしました。

引き続き、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくご願い申し上げます。

■当期の概況

当連結会計年度における国内医薬品業界は、社会保障費の財源確保を背景とする医療費・薬剤費の効率化に向けた諸施策が推進される中、2018年4月に薬価制度の抜本改革（薬価改定率 業界平均7.5%）が実施された影響により市場成長は低位に推移しました。

このような厳しい環境下、当社グループは長期ビジョン「HOPE100（～2023年度）」の実現に向けて、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－（2016年度～2019年度）」のもと、2018年度は経営方針に「スピーディな変革の実行」を掲げ、成長基盤の強化と収益力の向上に努めてまいりました。中核事業である医療用医薬品事業においては、グローバルを見据えたオリジナル新薬の創製、切れ目のない新薬の創出、新薬による市場の創造に、これまで以上のスピード感を持って取り組みました。また周辺事業では成長加速化・収益力向上を図ると共に、全社的にローコストオペレーション等にも取り組み、ステージ2の成果目標の達成に邁進し、ステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

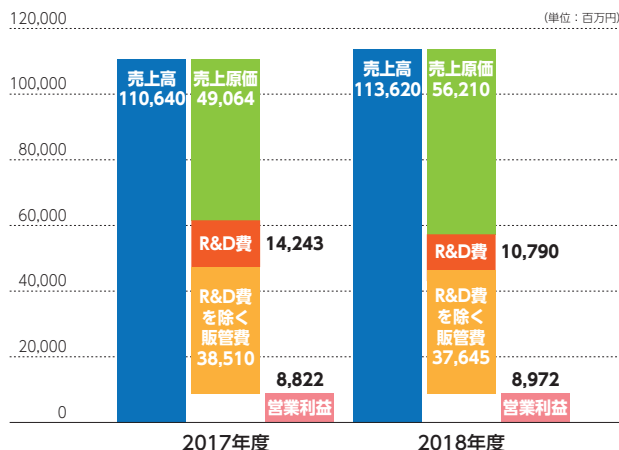
当連結会計年度における売上高は、2018年4月に実施さ

れた薬価改定（杏林製薬㈱7%台）の影響はあったものの、続伸した主力製品、販売移管した製品及び新発売した製品の寄与により、前期に対して新医薬品（国内）の売り上げが増加しました。他方、新医薬品（海外）は導出品の開発進展に伴う一時金収入の反動減により減少しましたが、後発医薬品の売り上げが前期を上回ったことにより、医療用医薬品事業合計としては増収となりました。ヘルスケア事業^{*1}の実績は微減となりましたが、全体の売り上げは前期比29億79百万円増（前期比2.7%増）の1,136億20百万円となりました。

※1：環境衛生、一般用医薬品他。

利益面では、薬価改定等による売上原価率の上昇、一時金収入の減少等により売上総利益が前期に対して41億66百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費は、費用の削減に取り組み、前期に対して43億16百万円減少（内、研究開発費34億52百万円減）したことで売上総利益の減少を吸収し、営業利益は89億72百万円と前期比1億50百万円の増益（前期比1.7%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、68億69百万円（前期比4.5%増）となりました。

損益の概要



医療用医薬品事業

■ 新医薬品（国内）

杏林製薬㈱では特定領域（呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科）の医師、医療機関に営業活動を集中するFC（フランチャイズカスタマー）戦略をベースとして、独自のエリアマネジメントを積極的に展開してまいりましたが、薬価制度抜本改革の進展によ



喘息治療配合剤
フルテアフォーム



定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤
ナゾネックス

る国内医療用医薬品の市場構造の急速な変化を踏まえ、「新薬群比率の向上」に重点的に取り組み、推進しました。当連結会計年度におきましては、中期経営計画の重点戦略に掲げる「新薬群比率の向上」の実現に向けて、主力製品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」では処方獲得の強化による処方患者数の増加に努め、順調に伸ばしました。また2018年8月より販売を開始した定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス点鼻液」、及び同年11月に新発売した選択的 β_3 アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の実績が拡大し、「新薬群比率の向上」に貢献しました。他方、長期収載品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」等の売り上げは減少しました。新薬群の中でも普及の最大化に注力し、実績を伸ばしてきた持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」につきましては、製造販売元であるMSD(株)が自主回収を決定したことから、2019年1月7日より製品供給を一時停止する状況となっています。以上の結果、新医薬品(国内)の売上高は776億94百万円(前期比5.4%増)となりました。

■ 新医薬品(海外)

前年度に計上した「FPR2 作動薬プログラム(導出先:米国内ブリistol・マイヤーズスクイブ社)」の開発進展に伴う一時金収入の反動減等により、売上高は前期に対して25億09百万円減少し、8億30百万円(前期比75.1%減)となりました。

■ 後発(ジェネリック)医薬品

モンテルカスト錠[KM](キプレス及びシングレアのAG^{*2})



選択的 β_3 アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤
ベオーバ



持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤
デザレックス

の売り上げが増加すると共に、今年度販売を開始した追補収載品が寄与し、売上高は前期に対して16億72百万円増の293億34百万円(前期比6.0%増)となりました。

※2: オーンサイズド・ジェネリックの略。先発医薬品と全く同じ成分(含む、原薬や添加物)、同一製造方法で製造した後発医薬品。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,078億59百万円(前期比3.0%増)となり、セグメント利益は83億16百万円(前期比0.7%増)となりました。

生産部門の取り組みとしましては、当社連結子会社である杏林製薬(株)の能代工場、キョーリン リメディオ(株)の生産本部、及びキョーリン製薬グループ工場(滋賀県甲賀市)^{*3}を新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(東京都千代田区)に、2018年4月1日付けで統合し、同日より本格稼働いたしました。中期経営計画の重点戦略である「ローコスト強化:グループ内最適化によるコスト構造の変革」のもと、キョーリン製薬グループ工場(株)に生産機能を集約し、グループ内生産の全体最適化とコスト低減を強力に推進しました。

※3: キョーリン製薬グループ工場(株)は、吸収合併により消滅会社となりました。

ヘルスケア事業

中期経営計画に掲げる育成戦略「環境衛生の事業成長と既存事業との連携強化により核となる事業を作る」を推進し、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」は前年を上回る実績で推移しましたが、その他の製品の売り上げが減少し、当セグメントの売上高は57億61百万円(前期比3.0%減)となり、セグメント利益は1億99百万円(前期比6.6%増)となりました。

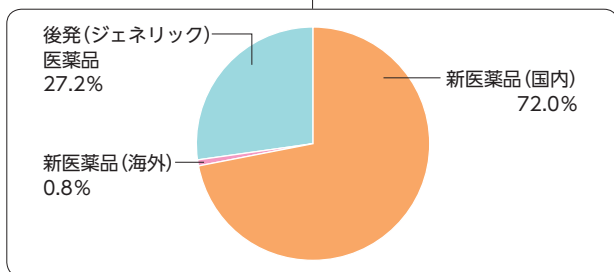
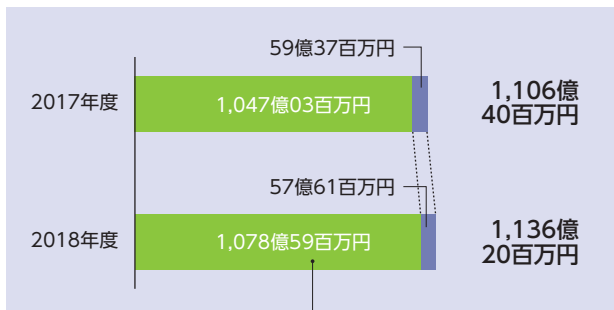


環境除菌・洗浄剤
ルビスタ



哺乳びん殺菌消毒剤
ミルトン

セグメント別売上高 ■ 医療用医薬品事業 ■ ヘルスケア事業



研究開発の状況

新薬メーカーにとっては、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出することが使命です。杏林製薬(株)は、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であり、持続成長に結びつくと認識に基づき、わたらせ創薬センターとActivX社の連携による自社創薬に国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを加えることで、既存の創薬プラットフォームの更なる活性化、新技術(ペプチド、遺伝子治療など)の応用・育成に努めました。また2018年度より創薬テーマの選択と集中を進め、重層的なプログラム開発に取り組むと共に外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行うことで、ファースト・イン・クラス創薬に向けた活動を展開しました。

国内開発の進捗状況

厚生労働省より製造販売承認を取得した選択的β₃アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤「ペオバ(一般名:ビブプロロン、開発コード:KRP-114V)」につきましては、2018年11

月に新発売いたしました。また、遺伝子治療薬「Ad-SGE-REIC」の悪性胸膜中皮腫を対象とするPhⅡ臨床試験を同年6月より、夜間多尿による夜間頻尿治療剤「KRP-N118」の後期PhⅡ臨床試験を同年8月より開始しました。間質性膀胱炎治療剤「KRP-116D」、喘息治療配合剤「KRP-108P」につきましては、PhⅢ臨床試験が終わり、申請準備中となっております。

創薬研究

オープンイノベーションの一環として、杏林製薬(株)が公益財団法人微生物化学研究会微生物化学研究所との共同研究を2018年度より始動し、重点研究領域の1つである感染症における創薬力の強化に努めました。また2018年12月、エルサレム・ヘブライ大学の技術移転会社Yissumと呼吸器領域における疾患治療薬の創製において戦略的パートナーシップを締結いたしました。同大学医学部薬学科医薬品研究所のFrancesca Levi-Schaffer教授が手がける研究プログラムを支援し、喘息等の治療薬に関わる新たな標的を見出すべく研究を進めることにいたしました。

次期(2020年3月期)の見通し

次期連結会計年度における売上高は、医療用医薬品事業では、2019年10月に実施が予定される薬価改定など一層厳しさを増すことが予想され、新医薬品(国内)の売り上げが前期を下回るものの、新医薬品(海外)及び後発医薬品は増収となる見通しです。またヘルスケア事業の売り上げも増加する見通しで、全体として増収を見込みます。新医薬品(国内)においては、主力製品であるフルティフォーム、デザレックス及びペオバの伸長はあるものの、消費増税に伴う薬価改定を想定すると共に、ナゾネックスのジェネリックの発売等により売上減少を見込みます。後発医薬品では、ナゾネックスのAG発売を予定しており売上増加を見込みます。

利益面では、薬価改定の影響はあるものの増収と新薬群比率の向上による原価率の改善により売上総利益が増加する見通しで、研究開発費を含む販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益は増益を見込みます。

2020年3月期連結業績予想(通期) (2019年5月13日公表)

売上高	1,141億円 (前期比0.4%増)
営業利益	91億円 (前期比1.4%増)
経常利益	96億円 (前期比1.7%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	71億円 (前期比3.4%増)

主な開発品の動向 | Products under Development

(2019年5月13日現在)

Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	開発段階					
				フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	申請	承認	
ペオーバ (KRP-114V)	過活動膀胱	米国 メルク社	<ul style="list-style-type: none"> 従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される β₃作動薬として、薬物相互作用が少ない 本剤が分類されるβ₃作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある 	国内					2018年11月上市
KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認 (市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症) <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す 血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 	国内					2017年4月
KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系 合成抗菌剤	自社	高い安全性が期待される <ul style="list-style-type: none"> 同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い 	国内					申請準備中
KRP-116D	間質性膀胱炎 治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	国内					申請準備中
KRP-108P	気管支喘息	英国 ベクチュラ社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	国内					申請準備中
KRP-N118 (SK-1404)	夜間多尿による 夜間頻尿	(株)三和化学 研究所	パンプレシンV2受容体のアゴニストで、腎臓の集合管で水の再吸収を促進して尿量を減らす(抗利尿作用) 有効性と安全性に優れた夜間多尿に伴う夜間頻尿治療薬として期待されている	国内					2018年8月
Ad-SGE-REIC	悪性胸腺中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。 がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	国内					2018年6月
【導出品】									
FPR2作動薬 プログラム	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	海外					米国プリストル・マイヤーズスクイブ社
KRP-203	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト	—					※再導出を検討中

開発プロセス の概要

フェーズⅠ

(第Ⅰ相臨床試験)

同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

フェーズⅡ

(第Ⅱ相臨床試験)

同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

フェーズⅢ

(第Ⅲ相臨床試験)

同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

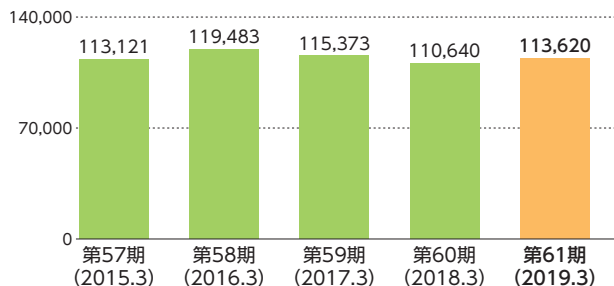
申請

有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

売上高 113,620百万円

前期比2.7%増

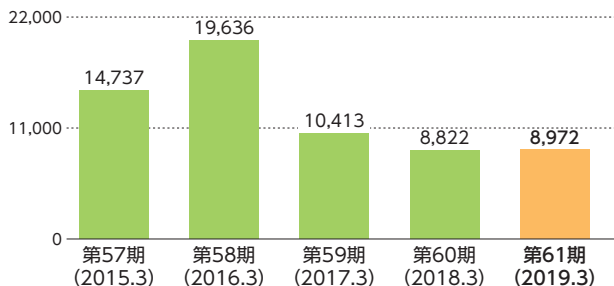
(単位：百万円)



営業利益 8,972百万円

前期比1.7%増

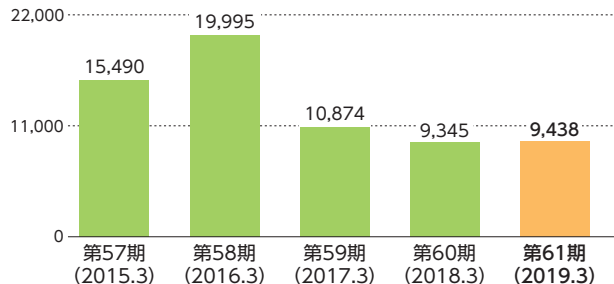
(単位：百万円)



経常利益 9,438百万円

前期比1.0%増

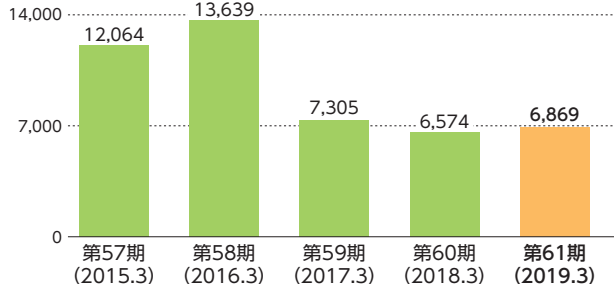
(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 6,869百万円

前期比4.5%増

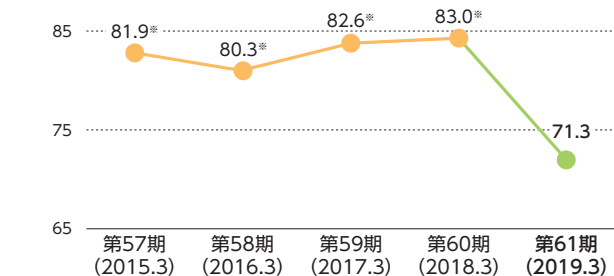
(単位：百万円)



自己資本比率 71.3%

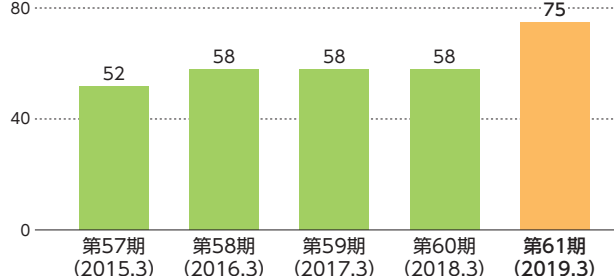
前期比11.7ポイント減

(単位：%)



配当金 75円

(単位：円)



*税効果会計に係る会計基準一部改正により遡及適用後の数値を基に算出しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	前期末* 2018年3月31日現在	当期末 2019年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	119,946	114,904
固定資産	76,789	58,130
有形固定資産	21,901	21,792
無形固定資産	1,750	3,401
投資その他の資産	53,137	32,936
資産合計	196,736	173,034
【負債の部】		
流動負債	25,134	41,480
固定負債	8,303	8,159
負債合計	33,438	49,639
【純資産の部】		
株主資本	155,489	116,744
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	152,542	128,999
自己株式	△2,506	△17,707
その他の包括利益累計額	7,808	6,651
純資産合計	163,297	123,395
負債純資産合計	196,736	173,034

※税効果会計に係る会計基準一部改正により遡及適用後の数値を記載しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	110,640	113,620
売上原価	49,064	56,210
売上総利益	61,576	57,409
販売費及び一般管理費	52,753	48,436
営業利益	8,822	8,972
営業外収益	640	798
営業外費用	118	332
経常利益	9,345	9,438
特別利益	627	66
特別損失	910	145
税金等調整前当期純利益	9,061	9,359
法人税、住民税及び事業税	2,759	2,004
法人税等調整額	△272	485
当期純利益	6,574	6,869
親会社株主に帰属する当期純利益	6,574	6,869

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	10,456	340
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,038	14,939
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,735	△27,315
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△210	△22
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	471	△12,057
現金及び現金同等物の 期首残高	42,499	42,971
現金及び現金同等物の 期末残高	42,971	30,914

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—(2016年度～2019年度)」

事業戦略

■ 重点戦略

① 創薬力の強化

継続的に革新的な新薬を生み出す体制を構築し、ファースト・イン・クラス創薬への取り組みを進めます。具体的には、FC領域における新奇な創薬ターゲットを見出すとともに、低分子をベースにした既存の創薬プラットフォームと、ペプチドや遺伝子治療といった新技術の活用により、ファースト・イン・クラスの新薬を創出します。さらに、オリジナル新薬のグローバルな展開と開発の加速化に向けて、パートナーとの早期の提携を目指します。

② 新薬群比率の向上

新薬群の普及の最大化によって、2019年度には新薬群比率を50%以上まで向上させます。特許切れを迎える「キプレス」の落ち込みを、新薬群の伸長によって乗り切っていくために、3成分4製品(アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X(経口剤)及びY(注射剤)」、過活動膀胱治療剤「KRP-114V」)を「ステージ2」の期間内に上市させるとともに、「フルティフォーム」と併せて製品普及の最大化を目指します。

③ 特色を活かしたジェネリック事業の推進

自社で開発・生産・販売を行っていることに加え、グループ内に杏林製薬(株)という新薬を扱う企業を有するという特性を活かし、オーソライズド・ジェネリック(以下、AG)を積極的に取り扱っていきます。キプレスのAGであるモンテルカスト錠「KM」のジェネリック医薬品市場での高いシェア獲得を目指すとともに、新たなAGの獲得も視野に入れていきます。

④ ローコスト強化

グループ内最適化によるコスト構造の変革を行います。新薬を扱う杏林製薬(株)能代工場、MSD製品を含め様々な製品を扱うキョーリン製薬グループ工場(株)、ジェネリック医薬品を扱うキョーリン リメディオ(株)井波工場、3つの性格の異なる工場の協業による全体最適化を進め、新薬群、先発品群、後発品群の枠を超えて適切な場所で製造を行うことで、工場稼働率の平準化と資産の効率活用を図っていきます。

■ 育成戦略

① 海外進出

世界の人々にオリジナル新薬を届けるための取り組みを展開します。具体的には、欧米展開は他社とのパートナーリングにより自社で創出した革新的な新薬のグローバルな展開を推進し、海外売上上の獲得を目指します。また、他社との協業を通じてアジアを中心に将来の直接的進出の礎を築きます。

② ヘルスケア事業

環境衛生に関わる事業(環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」)を成長させるとともに、既存事業との連携強化を図り、核となる事業の創出に取り組みます。また、次の核となる候補の道筋をつけていきます。

組織化戦略

当社グループは、社員を大切に、人と組織を活性化することが、事業戦略を遂行し、成果を具現するための最重要課題と位置づけています。「ステージ2」においても、社員にとって「働きがいNo.1企業」の実現を目指し、人材マネジメントの基本方針のもと、採用、配属、育成、評価、異動、報酬、福利厚生等、グループ各社の人材マネジメントシステムの再構築と人材育成の強化に取り組みます。

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—」の進捗と2019年度の取り組み

事業戦略

① 創薬力の強化

事業戦略の中の重点戦略において、最重要課題と位置づけ推進している創薬力の強化では、杏林製薬(株)わたらせ創薬センターとActivX社の連携による自社創薬と、国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションの活用により、創薬テーマの選択と集中、重層的なプログラム開発に取り組んできました。外部との連携や新技術獲得を更に積極的に推進すべく、組織の再編等を含む創薬企画機能の強化に取り組み、ファースト・イン・クラス創薬に向けて確実に歩みを進めます。

② 新薬群比率の向上

2018年度は自社開発の新薬である過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の販売を開始しました。2019年度はキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」の上市を目指します。今後は、主力製品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」、持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」と併せて、新薬群による市場創造に取り組み、成長軌道の獲得に最大限、注力いたします。

③ 特色を活かしたGE事業の推進

2016年度に販売を開始したモンテルカストAGのジェネリック内シェア50%以上を継続しつつ、次なるAGの展開を推進してまいります。

④ ローコスト強化

新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(株)に当社グループの生産機能を集約し、2018年4月1日より、本格稼働いたしました。今後も、工場稼働率の平準化と資産の効率活用に取り組み、高品質の製品を安定的かつ低コストで供給する競争力のあるグループ生産体制の構築に努めてまいります。

育成戦略

ヘルスケア事業では、環境衛生領域の主要製品「ルビスタ」の売り上げが拡大しました。今後も、環境衛生に関わる事業の更なる拡大と収益力の向上に努めます。

また2018年度に参入した診断事業では、感染症の起炎菌及びウイルスを特定する体外診断用医薬品の開発を進め、次の核となる事業への成長を推進いたします。

■ 会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 (英文: KYORIN Holdings, Inc.)
事業内容	創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社
本社所在地	〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
設立	1958年(昭和33年)
資本金	7億円
従業員	110名(連結2,297名)

■ グループ会社(連結子会社)

- 杏林製薬株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン リメディオ株式会社(石川県金沢市)
- キョーリン メディカルサブライ株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン製薬グループ工場株式会社(東京都千代田区)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	297,000,000株
発行済株式の総数	58,147,042株
	(自己株式6,460,894株を除く)
当期末株主数	6,225名

※2018年11月5日に開示しましたとおり、同年9月27日付で取得いたしました自己株式16,574,000株のうち、10,339,692株を同年11月30日付で消却いたしました。

■ 役員 (2019年6月21日現在)

取締役及び監査役	穂川 稔	がわ みのる
代表取締役会長	おぎ 原 豊	はら ゆたか
代表取締役社長	おぎ 原 茂	はら しげる
専務取締役	あ 原 久	けん じ
常務取締役	阿久津 賢	けん じ
取締役	さき 原 富	とみ や
取締役	おの た 道	みち ろう
取締役	はぎ 原 幸一	こういちろう
取締役	すぎ 林 正	まさ ひで
取締役(社外)	しか 内 徳	のり てる
取締役(社外)	しげ まつ 健	けん けん
取締役(社外)	わた なべ 弘	ひろ ひろ
常勤監査役	まつ もと 臣	まつもと ちみ
常勤監査役	たま き 修	たまき しゅう
監査役(社外)	お 幡 雅	お まさ
監査役(社外)	やま 幡 二	やま たか
監査役(社外)	山 隆	やま たか
監査役(社外)	かめ い 井	かめい お
	亀 井 温	かめい ひろ
		かめい 裕

執行役員

上席執行役員	伊藤 洋	いとう よう
執行役員	二井 康	ふたゐ やす
執行役員	小尾 紀	こお きの
執行役員	はし 爪 浩	はしつめ ひろし
執行役員	しも 爪 幸	しもつめ ゆき
	下 川 泰	しもがわ やす
		しもがわ 泰

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月に開催
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 (特別口座管理機関) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(お問合せ先) 〒168-8507
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほ証券株式会社
本店及び全国各支店

公告掲載紙 日本経済新聞

(ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんので
ご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 2019年6月3日付で発送いたしました第61回定時株主総会招集ご通知に同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつきましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及びみずほ銀行本店・全国各支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <https://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

ホームページサイト

キョーリン製薬グループについて	企業理念・長期ビジョン、目指す企業像、中期経営計画 等
グループ事業	トップメッセージ、グループの歴史、グループの全体像、価値創造プロセス、事業の概要 等
株主・投資家情報	中期経営計画、研究開発パイプライン、財務・業績、IRライブラリ、株式情報 等
CSR活動、企業情報 等	

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ
[e-株主リサーチ事務局]

TEL : 03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)
MAIL : info@e-kabunushi.com

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT- With the Earth を通じてオフセット(相殺)しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

